

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890400011		
法人名	社会福祉法人積心会		
事業所名	グループホームひまわりの郷 宮川1丁目		
所在地	福井県小浜市加茂2-52		
自己評価作成日	令和 2年 9月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号
訪問調査日	令和 2年 10月 6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H26年から機能変化の調査を半年ごとにデータを取り、グラフ化している。項目としては、バランス機能・認知機能・日常生活の3項目を調査。OTにデータ分析していただき、転倒リスク軽減等の判断材料として活かしている。レクリエーションは毎月2回職員が起案し、季節を感じるような行事を行い、施設生活が退屈にならないよう努力している。畑を職員、入居者様と一緒に管理もしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は自然豊かな環境の中にあり、法人が運営する特別養護老人ホームが併設している。建物は平屋で玄関を挟んで「宮川1丁目」、「宮川2丁目」の2ユニットが廊下でつながり、お互いの利用者が自由に行き来ができるなど広々とした居住空間となっている。職員は利用者寄り添い一人ひとりの行動を温かく見守りながら家庭的な環境で安心して生活できるよう支援している。また、敷地内に畑があり、季節の野菜作りを通して認知機能の維持に努めている。例年は事業所の行事に地域住民が参加したり、個別の外出支援等を行っているが、今年は新型コロナウイルス感染予防のためにほとんどの行事や外出を控えている。家族の面会等は、リモートやタブレットを使って実施している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に出勤者で基本理念の唱和を行っているが、職員の意識の問題なのか、理念を共有できているとは言えない。	法人全体の創業の基本理念、運営の基本理念を玄関先に掲示している他、職員は毎日の朝礼時に理念の唱和を行っている。また、具体的な介護目標も設定している。	理念に基づいた支援が日々実践できているかを、再度職員間で話し合うことが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園の慰問、地域ボランティアによる施設内外の掃除、入居者と一緒に軽作業を行っている。施設の夏祭りでは、地域の皆様にも参加して頂いているが、新型コロナウイルスの影響で実施できていない状態が続いている。	利用者は、法人が開催する夏祭りに職員と共に参加したり、ボランティア等の訪問を受け入れるなど地域住民と交流を図っていたが、今年は新型コロナウイルス感染予防のため実施することができない。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ひまわり通信を4ヶ月毎に発行。公民館等に配布し、レクリエーション活動や施設の報告を掲載することで情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催。市、地域包括、家族代表、地区民生委員、地区公民館長に施設の現状報告をしている。皆様から意見や要望を聞き、施設運営やサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、地区公民館長・民生委員・家族・市職員などの参加を得て2か月毎に開催している。会議では、事業所の運営状況を報告し、委員から助言・要望などを得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の方にも参加して頂き、分からないことや判断に困ることを相談している。その他わからない事があればその都度市の担当者に連絡し、協力関係を築いている。	市担当者が運営推進会議へ出席するほか、利用者支援について助言を求めたり、事業所運営についても相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のドアは過去に脱所があり施錠を行っている。運営推進会議で報告し、市の担当者から他施設の対応や助言をもらったが、皆様に理解を得て安全面を優先させていただいている。身体拘束は現在行っていない。やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族への説明・承諾書をいただき、日々の記録を残して解除に向けた話し合いを身体拘束等適正化委員会で行うようにしている。	職員は身体拘束しないケアを心得ているが、建物の構造上玄関ドアは利用者の安全確保を優先し、やむなく施錠している。精神的に不安定な利用者に対しては、職員が寄り添って気分を紛らわしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務に追われイライラしていると心に余裕がなくなる。言葉の暴力になってないか？態度に出していないか？等を会議で話し合う。また、職員間の連携を大切に、報告しやすい環境にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ごく一部の職員は研修で学んでおり、知識はあるが活用は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は管理者と介護主任で行っている。疑問点や不安なことについては十分な説明を行い、理解・納得した上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月「家族への手紙」を送付し、入居者様の様子を伝えている。意見・要望については、入居者様の日常の会話や家族様の面会時・運営推進会議の家族様代表のお話・意見箱等を考慮し、運営に反映している。	電話や面会時などに利用者や家族から意見や要望、不満などを聞いて把握している。出された内容は、職員で話し合っ改善につなげている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議・ユニット会議を行い、職員の意見・提案を聞いているが、運営に関することは反映されないこともある。	会議等で職員の意見や要望を聴くように心がけている。また、通常業務時やミーティングなどの際にも職員の意見や気づいたことを聞き、その都度話し合っている。	施設長や管理者は職員からの悩みや不満などを聞く機会として、定期的に職員面談を行うことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	併設している特養と比べられ「介護度が低い＝介護が楽」と思っている節がある。職員によっては、やりがい・向上心を持って働いているとは言えない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内をいただくが、職員不足で研修に参加できていない。施設内での研修も参加人数が少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小浜市地域ケア連絡協議会に参加。定例会での意見交換や地域活動を通じて、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様のお話を聞き、希望や不安な事等を把握できるよう心掛けている。日々の様子・表情等にも注意し、安心して生活できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時や契約時等で、家族様の想いや要望、不安な事を聞き、安心していただけるよう努めている。状態に変化があった場合などには家族様に報告し、家族様との関係づくりにも努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・家族様から話を伺い、必要と思われる事柄を見極め、サービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	以前より介護度が下がってきた事もあり、野菜の皮むき等の調理の手伝い、畑の草取りを一緒に行うことで、ともに生活する者同士の関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響もあり、現状面会はできない。しかし、テレビ電話や写真付きの手紙で状態を報告し、家族との繋がりが絶えないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望の日を設け、馴染みの場所に出掛ける等を行っていたが、感染予防の為、外出が出来ず実施できていない状態。	現在、新型コロナウイルス感染予防のため直接の面会や外出がほとんど行うことが出来ない。家族等の面会はリモートにより行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることで、入居者様同士のコミュニケーションが円滑になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後は、家族からの相談・支援の要望はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を伺い、ケアプランを作成している。また、日々の行動や家族様からのお話を参考にし、本人本位のプランになるよう努めている。	これまでの生活歴を考慮しつつ、日々の関わりの中から利用者の思いや意向を把握するよう心掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や家族様から昔の話や生活歴等を伺い、今までの暮らしについて把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日課表の記録や、日々の会話や行動の観察によって、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様に現状を伝えてお話を伺い、また、入居者様の要望も伺っている。介護・看護も交えて意見を出し合い、ケアプランに反映している。	利用者や家族の意向と担当職員や全職員の意見を聞き、利用者の状況に応じた生活の評価とモニタリングを行い、その結果を基に介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日課記録表があり、ケアプランの実施状況を記録している。それを元に7表の記入やモニタリングを行い、次回のプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染予防の為、出来ないことも多いが、入居者様や家族様からの要望については、可能な限り答えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区公民館長や地区民生委員に、2か月に1回の運営推進会議に出席していただき、地域との繋がりをもっている。しかし、コロナ禍の中では、豊かな暮らしを楽しめているとは言えない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の嘱託医に、月1回の受診と往診で診ていただいている。家族様の意向がある場合は嘱託医に伝え、適切な医療が受けられるようにしている。	事業所がかかりつけ医を設けており、通院には職員が同行している。月に1回の往診体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを看護師が行い、体調管理をしている。また、介護職からの“気付き”はすぐに看護師に報告し処置を行った。状態によっては嘱託医の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際は、家族様・病院の地域連携室と連絡を取り、状態を把握し上で早期に退院できるように努めている。退院前に、退院後の施設生活についてケアカンファレンスを行うこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については契約時に説明している。併設している特養とも情報を共有し、重度化した入居者様が移動できるような体制を取っている。	終末期や重度化した際には、原則として法人内の介護施設や病院に引き継いでいる。利用申込時や状態が変化した際に利用者や家族への説明、話し合いをしながら対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時等の対応について確認し、行動できるよう指導している。また、窒息・骨折等、項目ごとの対応マニュアルを作成し、職員の不安を軽減できるような事もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、水害時避難訓練と消防避難訓練を実施。職員の動きを確認しスムーズに避難できるように訓練している。また、公民館や消防団とも情報を共有している。	年に2回、利用者と一緒に避難訓練を実施しており、うち1回は消防署が立ち会って実施している。また、水害時を想定した訓練も実施している。	水害時の職員体制の把握や、夜間の災害時の対応等を職員が不安なく行動できるよう協議することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な言葉遣いを心掛けている。しかし、職員全員が同じ想いではなく、不適切な言葉が見られた場合は、その都度指導している。	職員は利用者の人格を尊重し、利用者一人ひとりに合わせた声掛けをするよう配慮している。また、自然でさりげないケアを心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護度が低下し、希望や思いを伝える入居者様が増えてきた。出来るだけ自己決定できるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースを大切にしているが、職員不足により、職員側の都合に合わせた対応になってしまうことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴日の着替えを、入居者様自身で選んでもらう方もおられるが、概ね職員が着替えを準備し、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配サービスを利用し、施設のキッチンで料理を行っている。メニューどおりではなく、週2,3回はメニューを差し替え、季節の食べ物・入居者様の希望があった食べ物をメニューに取り入れるようにしている。じゃがいもの皮むき等、簡単な作業は入居者様にお願いすることもある。	利用者は、可能な範囲で調理や片付けなどに関わっている。献立は利用者の希望や旬の食材を取り入れて作り、和やかな雰囲気の中で食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量は経過表に記入し、栄養摂取の把握に努めている。水分確保については、食事以外に10時・15時に飲み物を飲んで頂いている。夏場に関しては、追加で起床時に麦茶を飲み、熱中症や脱水にならないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行っている。ご自分で出来る方は声掛けして口腔ケアを促し、介助が必要な方は職員が行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、義歯の方は毎日夕食後に、義歯洗浄剤で消毒も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックが必要な方は、経過表に記録し、排尿・排便の回数といった排泄パターンの把握に努めている。排泄の訴えが出来ない方もおられるが、行動に注意しトイレの声掛けをすることもある。出来る限りトイレにて排泄ができるよう支援している。	職員が利用者一人ひとりの排泄時間を記録するなど、個々の排泄リズムの把握に努め、さりげなくトイレへの声掛けを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週3回、朝食時にヨーグルトを食べてもらったり、10時の水分補給時に牛乳を飲んでもらったりと、薬にできるだけ頼らない努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに入浴は出来ていない。決められた曜日、時間帯での入浴となっている。	基本的に入浴は週2回午前中とし、利用者ごとに入浴日を決めている。入浴は利用者の状態に合わせて対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分で動けない方や訴えが出来ない方については、状態をよく観察・声掛けを行い、居室で休めるような支援をしている。日中夜間とも、気持ちよく休んでいただけるように、室温調整には気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が飲んでいる薬についての薬剤情報ファイルがあるので、効能・副作用はいつでも確認でき、また、看護師・主治医とも連携を取っているため、症状に合わせた支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍のため活動の制限はあるが、施設内で出来るレクリエーションや畑を楽しんで頂いている。日常会話からも生活歴を伺い、楽しみごとの情報を得て実施することもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが流行するまでは、入居者様の希望を叶える『希望の日』を実施し、家族様とご飯を食べたり、お墓参りに行かれたりしていた。最近は、施設周辺の散歩やドライブが出来るよう努めている。	新型コロナウイルス感染予防のため、ほとんど室内での活動となっている。天気の良い日などは、周辺の散歩や車でのドライブを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所でっており、金銭のやりとり・紛失等の問題があるため、入居者様がお金を所持することはない。買い物等でお金を使う場合は、必要な分を事務所から受け取り、買い物後はレシートと残ったお金を事務所に返している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常生活の中で、家族様の話題があった場合は職員の方から「電話で話してみますか?」といった対応を取ることもある。最近ではタブレットを導入し、テレビ電話を活用している。予約制だが、顔を見て話せて良かったとの声を頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、入居者様にとって不快や混乱を招かないように努めている。毎月、掲示板に季節感のある展示物を貼り、その展示物の作成に関しても入居者様に手伝ってもらっている。	リビングは天井が高く開放的で、採光も良くゆったりした空間になっている。中庭には野菜を栽培したり植物を植えるなど、四季を感じられるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにあるダイニングテーブルで過ごされる方が殆どですが、仲の良い入居者様同士で過ごせる談話室を設けている。独りになりたい時はご自分の居室で過ごされている方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れたタンスやテーブルを持ってきていただき、少しでも不安な気持ちを取り除けるよう努めている。	居室には馴染みの家具等の持ち込みが可能で、利用者の作品が飾られるなど、利用者の個性に応じた居心地の良い空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表示してある文字は大きめにし読みやすくしている。施設内はバリアフリーで転倒のリスクを減らし、各所に手すりを設置することで、歩行の安定を図っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1890400011		
法人名	社会福祉法人積心会		
事業所名	グループホームひまわりの郷 宮川2丁目		
所在地	福井県小浜市加茂2-52		
自己評価作成日	令和 2年 9月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 2年 10月 6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

H26年から機能変化の調査を半年ごとにデータを取り、グラフ化している。項目としては、バランス機能・認知機能・日常生活の3項目を調査。OTにデータ分析していただき、転倒リスク軽減等の判断材料として活かしている。レクリエーションは毎月2回職員が起案し、季節を感じるような行事を行い、施設生活が退屈にならないよう努力している。畑を職員、入居者様と一緒に管理もしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

宮川1丁目と同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り時に出勤者で基本理念の唱和を行っているが、職員の意識の問題なのか、理念を共有できているとは言えない。	宮川1丁目と同じ	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の保育園の慰問、地域ボランティアによる施設内外の掃除、入居者と一緒に軽作業を行っている。施設の夏祭りでは、地域の皆様にも参加して頂いているが、新型コロナウイルスの影響で実施できていない状態が続いている。	宮川1丁目と同じ	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ひまわり通信を4ヶ月毎に発行。公民館等に配布し、レクリエーション活動や施設の報告を掲載することで情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催。市、地域包括、家族代表、地区民生委員、地区公民館長に施設の現状報告をしている。皆様から意見や要望を聞き、施設運営やサービス向上に活かしている。	宮川1丁目と同じ	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の方にも参加して頂き、分からないことや判断に困ることを相談している。その他わからない事があればその都度市の担当者に連絡し、協力関係を築いている。	宮川1丁目と同じ	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関のドアは過去に脱所があり施錠を行っている。運営推進会議で報告し、市の担当者から他施設の対応や助言をもらったが、皆様に理解を得て安全面を優先させていただいている。身体拘束は現在行っていない。やむを得ず身体拘束を行う場合は、家族への説明・承諾書をいただき、日々の記録を残して解除に向けた話し合いを身体拘束等適正化委員会で行うようにしている。	宮川1丁目と同じ	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	業務に追われイライラしていると心に余裕がなくなる。言葉の暴力になってないか？態度に出していないか？等を会議で話し合う。また、職員間の連携を大切にし、報告しやすい環境にも努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ごく一部の職員は研修で学んでおり、知識はあるが活用は出来ていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約は管理者と介護主任で行っている。疑問点や不安なことについては十分な説明を行い、理解・納得した上で同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月「家族への手紙」を送付し、入居者様の様子を伝えている。意見・要望については、入居者様の日常の会話や家族様の面会時・運営推進会議の家族様代表のお話・意見箱等を考慮し、運営に反映している。	宮川1丁目と同じ	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議・ユニット会議を行い、職員の意見・提案を聞いているが、運営に関することは反映されないこともある。	宮川1丁目と同じ	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	併設している特養と比べられ「介護度が低い＝介護が楽」と思っている節がある。職員によっては、やりがい・向上心を持って働いているとは言えない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内をいただくが、職員不足で研修に参加できていない。施設内での研修も参加人数が少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	小浜市地域ケア連絡協議会に参加。定例会での意見交換や地域活動を通じて、サービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様のお話を聞き、希望や不安な事等を把握できるよう心掛けている。日々の様子・表情等にも注意し、安心して生活できる環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込時や契約時等で、家族様の想いや要望、不安な事を聞き、安心していただけるよう努めている。状態に変化があった場合などには家族様に報告し、家族様との関係づくりにも努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様・家族様から話を伺い、必要と思われる事柄を見極め、サービスを提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	以前より介護度が下がってきた事もあり、野菜の皮むき等の調理の手伝い、畑の草取りを一緒に行うことで、ともに生活する者同士の関係を築けるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナウイルスの影響もあり、現状面会はできない。しかし、テレビ電話や写真付きの手紙で状態を報告し、家族との繋がりが絶えないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	希望の日を設け、馴染みの場所に出掛ける等を行っていたが、感染予防の為、外出が出来ず実施できていない状態。	宮川1丁目と同じ	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入ることで、入居者様同士のコミュニケーションが円滑になるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約の終了後は、家族からの相談・支援の要望はない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を伺い、ケアプランを作成している。また、日々の行動や家族様からのお話を参考にし、本人本位のプランになるよう努めている。	宮川1丁目と同じ	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者様や家族様から昔の話や生活歴等を伺い、今までの暮らしについて把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日課表の記録や、日々の会話や行動の観察によって、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族様に現状を伝えてお話を伺い、また、入居者様の要望も伺っている。介護・看護も交えて意見を出し合い、ケアプランに反映している。	宮川1丁目と同じ	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日課記録表があり、ケアプランの実施状況を記録している。それを元に7表の記入やモニタリングを行い、次回のプラン作成に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	感染予防の為、出来ないことも多いが、入居者様や家族様からの要望については、可能な限り答えられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区公民館長や地区民生委員に、2か月に1回の運営推進会議に出席していただき、地域との繋がりをもっている。しかし、コロナ禍の中では、豊かな暮らしを楽しまれているとは言えない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の嘱託医に、月1回の受診と往診で診ていただいている。家族様の意向がある場合は嘱託医に伝え、適切な医療が受けられるようにしている。	宮川1丁目と同じ	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日のバイタルチェックを看護師が行い、体調管理をしている。また、介護職からの“気付き”はすぐに看護師に報告し処置を行ったり、状態によっては嘱託医の指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者様が入院された際は、家族様・病院の地域連携室と連絡を取り、状態を把握し上で早期に退院できるように努めている。退院前に、退院後の施設生活についてケアカンファレンスを行うこともある。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期については契約時に説明している。併設している特養とも情報を共有し、重度化した入居者様が移動できるような体制を取っている。	宮川1丁目と同じ	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時等の対応について確認し、行動できるよう指導している。また、窒息・骨折等、項目ごとの対応マニュアルを作成し、職員の不安を軽減できるような事もしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、水害時避難訓練と消防避難訓練を実施。職員の動きを確認しスムーズに避難できるように訓練している。また、公民館や消防団とも情報を共有している。	宮川1丁目と同じ	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、丁寧な言葉遣いを心掛けている。しかし、職員全員が同じ想いではなく、不適切な言葉が見られた場合は、その都度指導している。	宮川1丁目と同じ	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	介護度が低下し、希望や思いを伝える入居者様が増えてきた。出来るだけ自己決定できるような支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様一人ひとりのペースを大切にしているが、職員不足により、職員側の都合に合わせた対応になってしまうことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴日の着替えを、入居者様自身で選んでもらう方もおられるが、概ね職員が着替えを準備し、身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は宅配サービスを利用し、施設のキッチンで料理を行っている。メニューどおりではなく、週2,3回はメニューを差し替え、季節の食べ物・入居者様の希望があった食べ物をメニューに取り入れるようにしている。じゃがいもの皮むき等、簡単な作業は入居者様にお願いすることもある。	宮川1丁目と同じ	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量は経過表に記入し、栄養摂取の把握に努めている。水分確保については、食事以外に10時・15時に飲み物を飲んで頂いている。夏場に関しては、追加で起床時に麦茶を飲み、熱中症や脱水にならないよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行っている。ご自分で出来る方は声掛けして口腔ケアを促し、介助が必要な方は職員が行い、口腔内の清潔保持に努めている。また、義歯の方は毎日夕食後に、義歯洗浄剤で消毒も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のチェックが必要な方は、経過表に記録し、排尿・排便の回数といった排泄パターンの把握に努めている。排泄の訴えが出来ない方もおられるが、行動に注意しトイレの声掛けをすることもある。出来る限りトイレにて排泄ができるよう支援している。	宮川1丁目と同じ	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	週3回、朝食時にヨーグルトを食べてもらったり、10時の水分補給時に牛乳を飲んでもらったりと、薬にできるだけ頼らない努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに入浴は出来ていない。決められた曜日、時間帯での入浴となっている。	宮川1丁目と同じ	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分で動けない方や訴えが出来ない方については、状態をよく観察・声掛けを行い、居室で休めるような支援をしている。日中夜間とも、気持ちよく休んでいただけるように、室温調整には気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様が飲んでる薬についての薬剤情報ファイルがあるので、効能・副作用はいつでも確認でき、また、看護師・主治医とも連携を取っているため、症状に合わせた支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍のため活動の制限はあるが、施設内で出来るレクリエーションや畑を楽しんで頂いている。日常会話からも生活歴を伺い、楽しみごとの情報を得て実施することもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが流行するまでは、入居者様の希望を叶える『希望の日』を実施し、家族様とご飯を食べたり、お墓参りに行かれたりしていた。最近は、施設周辺の散歩やドライブが出来るよう努めている。	宮川1丁目と同じ	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所でっており、金銭のやりとり・紛失等の問題があるため、入居者様がお金を所持することはない。買い物等でお金を使う場合は、必要な分を事務所から受け取り、買い物後はレシートと残ったお金を事務所に返している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日常生活の中で、家族様の話題があった場合は職員の方から「電話で話してみますか?」といった対応を取ることもある。最近ではタブレットを導入し、テレビ電話を活用している。予約制だが、顔を見て話せて良かったとの声を頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、入居者様にとって不快や混乱を招かないように努めている。毎月、掲示板に季節感のある展示物を貼り、その展示物の作成に関しても入居者様に手伝ってもらっている。	宮川1丁目と同じ	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースにあるダイニングテーブルで過ごされる方が殆どですが、仲の良い入居者様同士で過ごせる談話室を設けている。独りになりたい時はご自分の居室で過ごされている方もおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れたタンスやテーブルを持ってきていただき、少しでも不安な気持ちを取り除けるよう努めている。	宮川1丁目と同じ	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表示してある文字は大きめにして読みやすくしている。施設内はバリアフリーで転倒のリスクを減らし、各所に手すりを設置することで、歩行の安定を図っている。		